

各関係機関 御中

石川県農林総合研究センター所長  
( 公 印 省 略 )

病害虫発生予察情報について

令和3年度病害虫発生予報第6号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 電 話 076-257-6911 (代表) F A X 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	---

## 病害虫発生予報第6号 (予報期間：9月上旬～9月下旬)

### 予報内容

#### 大 豆

**葉焼病**の発生は**やや多**と予想される。病原菌は風雨によって飛散する。発病を認めたら直ちに防除する。

**ハスモンヨトウ**の発生は**やや多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底する。

#### 果 樹

**カキ炭疽病**の発生は**多**と予想される。降雨前後の薬剤防除を徹底する。

**リンゴ褐斑病**の発生は**やや多**と予想される。予防防除を徹底する。

**果樹カメムシ類**の発生は**やや多**と予想される。山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、園内への侵入に十分注意する。

**ハダニ類**の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため同一系統の薬剤は連用しない。発生源となる下草を刈り取った後、防除する。

#### 野菜・花き

**ネギ黒斑病**の発生は**多**と予想される。予防防除を徹底する。

**軟腐病**の発生は**やや多**と予想される。傷口や害虫の食害痕から病原菌が侵入するので、害虫防除や強い風雨後の防除を徹底する。

**アザミウマ類**の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

**ハスモンヨトウ**および**シロイチモジヨトウ**の発生は**やや多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底する。

※ 病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。 また、周辺作物への飛散防止を徹底する。
---

# 気象予報

1か月予報 (令和3年8月26日付け 新潟地方气象台)

予報期間 8月28日～9月27日

## [確率予報]

気温	低い	30%	平年並	40%	高い	30%
降水量	少ない	30%	平年並	50%	多い	20%
日照時間	少ない	20%	平年並	50%	多い	30%

## [概要]

平年と同様に、天気は数日の周期で変わるでしょう。

### ・8月28日(土)～9月3日(金)

高気圧に覆われて晴れる日もありますが、気圧の谷や湿った空気の影響で、雲が広がりやすいでしょう。

### ・9月4日(土)～9月10日(金)

低気圧と高気圧が交互に通過し、平年と同様に天気は数日の周期で変わるでしょう。

### ・9月11日(土)～9月24日(金)

低気圧と高気圧が交互に通過し、平年と同様に天気は数日の周期で変わるでしょう。

注 1) 発生量は平年比。  
2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、  
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す。

## 1 大豆の病害虫

### 葉焼病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温はほぼ平年並 (±) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 病原菌は風雨によって飛散する。発病が認められたら、直ちに防除を行う。

### ハスモンヨトウ

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数はやや多 (+) (2) 気温はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

### フタスジヒメハムシ

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (-) (2) 気温はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

### カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 予察灯での誘殺数は並 (±) (2) 気温はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 子実肥大期の防除を徹底する。

### ハダニ類

発生時期	連続発生
発生量	少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) 気温はほぼ平年並 (±)

- 防除上の注意事項
- (1) 発生初期に防除を実施する。
  - (2) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

## 2 果樹の病害虫

### ナシ黒斑病

- |          |  |
|----------|--|
| 発生時期     | 連続発生   |
| 発生量      | 並  |
| 予報の根拠    | (1) 現在の発生は並 (±)<br>(2) 気温はほぼ平年並 (±)<br>(3) 降水量はほぼ平年並 (±) |
| 防除上の注意事項 | (1) 耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。                         |

### リンゴ斑点落葉病

- |          |  |
|----------|--|
| 発生時期     | 連続発生   |
| 発生量      | 並  |
| 予報の根拠    | (1) 現在の発生は並 (±)<br>(2) 気温はほぼ平年並 (±)<br>(3) 降水量はほぼ平年並 (±) |
| 防除上の注意事項 | (1) 予防防除を徹底する。   |

### リンゴ褐斑病

- |          |  |
|----------|--|
| 発生時期     | 連続発生   |
| 発生量      | やや多  |
| 予報の根拠    | (1) 現在の発生はやや多 (+)<br>(2) 気温はほぼ平年並 (±)<br>(3) 降水量はほぼ平年並 (±) |
| 防除上の注意事項 | (1) 予防防除を徹底する。   |

### カキ炭疽病

- |          |  |
|----------|--|
| 発生時期     | 連続発生   |
| 発生量      | 多  |
| 予報の根拠    | (1) 現在の発生は多 (+)<br>(2) 気温はほぼ平年並 (±)<br>(3) 降水量はほぼ平年並 (±) |
| 防除上の注意事項 | (1) 降雨前後の薬剤防除を徹底する。                                      |

#### 果樹カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 予察灯への誘殺数はやや多 (+) (2) 気温はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、園内への侵入に十分注意する。

#### ハダニ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。 (2) 発生源となる下草を刈りとった後に防除する。

### 3 野菜・花きの病害虫

#### 軟腐病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温はほぼ平年並 (±) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 傷口や害虫の食害痕から病原菌が侵入するので、害虫防除や強い風雨後の防除を徹底する。

#### ネギ黒斑病

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生は多 (+) (2) 気温はほぼ平年並 (±) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 予防防除を徹底する。

#### アザミウマ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### アブラムシ類

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### ハスモンヨトウ

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数はやや多 (+) (2) 気温はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### シロイチモジヨトウ

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数はやや多 (+) (2) 気温はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### オオタバコガ

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数はやや少 (-) (2) 気温はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### コナガ (アブラナ科: ダイコン、ブロッコリーなど)

発生時期	増加期は9月上旬以降
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (-) (2) フェロモントラップ誘殺数はやや少 (-) (3) 気温はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。